

令和8年1月 吹田市連合自治会ネットワークテーブル概要

日時:令和8年(2026年)1月19日(月)

午後2時~午後4時30分

場所:メイシアター 集会室

市長と連合自治会が意見交換を行う場として、令和8年1月19日(月)、吹田市連合自治会ネットワークテーブルを開催しました。

1 市民公益活動センター「ラコルタ」の説明

今回は「地域コミュニティ」をテーマに、まず市民公益活動センター「ラコルタ」センター長が「多様化する地域コミュニティのこれから」をテーマに説明を行いました。

その説明を受け、参加者がA~Dの4グループに分かれ、グループ内でそれぞれの地域での取組や課題等について話し合い、その後、各グループでの気づきなどについて発表を行い、市長と意見交換を行いました。

2 市長との意見交換

Aグループ

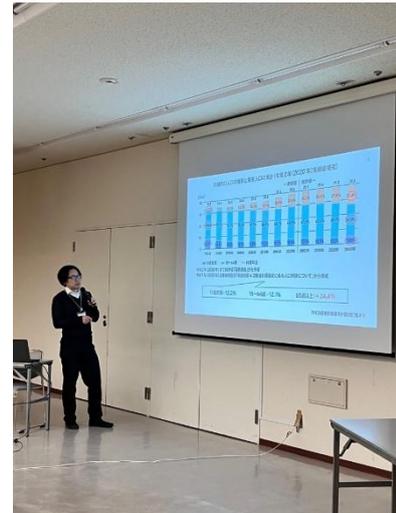
まずは、自治会活動で楽しいことはあったかという話から始まり、自治会に参加している方は地域組織に重層的に参加しているという結論になりました。そういう意味では、自治会は本当に大切だと思いました。地域の中での人と人との繋がりを考え、頑張ってきたのが連合自治会長ではないかと思います。

グループ内で、クリスマス会を開催する際に、役員だけでなく、若い世代を巻き込み企画したという意見がありました。これからの若い方たちの巻き込み方について、非常に参考になる意見をいただいたと思います。

市長

最初に出た「楽しい」というキーワードを阻害する要因は「真面目」な人です。真面目は間違いではありませんが、大阪で最も評価の高い言葉は「おもろい」です。おもろいことは必ずしも不真面目なことではありません。「真面目」というブレーキに対するアクセルは「おもろい」であると私は感じて、今まで、自治会活動やNPO活動を見てきました。いい団体は「おもろい」です。

重層的な活動もそうで、一つ役をやると次々別の役が来て断ることができず、だんだん皆さんの能力が上がっていきます。いろんな物事を知ることになってしまい、だから後継者がいません。一方で、後



継者が見つかったとしても、その方が何か変えようとしてもリスクがあります。重層的な活動はある意味縛られています。その縛りをちゃんと民主的に進める、ものすごく高度な仕事をされていると思います。

「重層的」という言葉が出ましたが、ここで自治会だけの話をしたら筋を外してしまいます。自治会はそのうちの一つの団体です。

SNS活用のポイントは、次の次の世代に任せることです。現在は、色んなSNSがあります。SNSで発信してほしい情報について、若い世代に伝えるとすぐに情報発信してくれます。



Bグループ

地域コミュニティが多様化する中の連合自治会というところですが、連合自治会長は色んな情報が入ってきますので、地区全体の活動を全て網羅して、ハブ的な役割を担っていると感じています。

グループ内での話を伺っていると、自治会への加入を促進するけどなかなか難しいので、自治会だけでできないことを、色んな行事をツールに、各地域諸団体に関わっていただけるよう努力されているようです。また、Bグループの連合自治会は、関西大学と大和大学に近接しているので、大学・学生との連携を取っています。さらに、自治会活動の外部への情報の発信が大切だという意見も出ました。

市長が発言されたとおり、連合自治会長はどうしてもマストで動きがちです。連合自治会長として責任は持ちますが、イベントの運営について、若い世代の方に行っていただけるように流れを変えていこうと思っています。

地元の間人だけで固まらないよう、新しく入って来られた方も一緒に、楽しく地域活動ができればと思っています。

市長

連合自治会や地域によってカラーがあることを皆さんも実感されたと思います。Bグループのように、大学と商店街がある地域の連合自治会は運営の難しさを感じています。活気のある街づくりができる一方、静かに暮らしたい方もいます。みんなが喜ぶ街はありません。「地方創生」や「活性化」は経済を回したい人が思っているだけで、市民全員が感じていると思うのは大間違いです。そこは行政としても注意をしています。

自治会は戦時中の「隣組」の血を受け継いでいます。ですので、連合自治会長に就任され、この地域全体を私が見ていかないといけないと思われたと思います。そこから間違いが始まります。それは「おもしろい」と思います。もし、世の中に連合自治会が全く無ければどうなるか考えてみてください。生命的な危機は起こりません。自治会の存在がマストなのかということから問い直さないと、若い人たちが持つ自治会に入って何があるのか、という問いへ答えることができません。結局、残るのは「楽しい」ということです。

SNSで情報発信しても、面白くないと見てくれません。吹田市消防本部のインスタグラムはとても面白く、全世界の多くの方に投稿を見ていただいています。その結果、今回の消防本部採用試験では女性の応募がかなり増えました。インスタグラムを投稿しているのは、若手職員です。上司は投稿内容に一切関わっていません。連合自治会でのSNS活用は、そこにヒントがあると思います。学生など若い

世代に全部任せたら、今までにない発信ができるのではないのでしょうか。「任せる」の先に「おもしろい」があると感じています。

Cグループ

Cグループは山田・千里丘地域の連合自治会のグループでした。山田・千里丘地域といっても、昔ながらの地域、マンション中心の地域、単一の自治会で連合自治会を運営されている地域もあります。また、割と入り組んでいるので、防災の場面で近隣自治会と連携を取らないとうまくいかない地域もあります。

自治会の運営について、単一自治会長に役割を持ってもらって、連合自治会の役員になっていただいている地域、チラシやホームページを活用して情報発信をされている地域もありました。また、近隣の連合自治会と一緒に防災訓練を実施している地域もあり、近隣自治会との横の繋がりをもっと持っていけないといけないという話もありました。あるいは、マンションが多い地域では、管理組合と上手く協力できるような形にしていきたいという話もありました。

これからの地域コミュニティを考えたときに、キーワードは「防災」になると思います。色んな地域の団体や事業所を巻き込んで地域の総合力で防災対策をできればという話もありました。

市長

管理組合=自治会と思われがちですが、それは違います。管理組合の役員は、毎年メンバー変わり、任期は長くて2年です。地域との繋がりと言うと、頻繁にメンバーが変わられたら、今誰が代表者か分からなくなります。だから、管理組合と自治会を機能として分けて運営するべきです。管理組合は財産を守るための組織です。防災など、それ以外のことは全て自治会でというふうに仕事を分けて、だんだん理解してくれるようになってきました。

吹田市は、全世帯の4分の3が集合住宅在住、全世帯の6割が単身世帯です。また、三世帯同居家庭は、ほとんどありません。このような特徴のある吹田市での自治会の役割・自治会活動は何でしょうか。賃貸物件在住者の場合は、自治会にも管理組合にも関わっていない場合が多いですが、地域に住んでいるし、学校にも通っています。そのような人たちを見逃してはいけないということは、常日頃から思っています。そのような方は、地域のイベントには来られます。

「横の繋がり」という発言がありましたが、なかなか難しいです。これから吹田市の人口は減少していくと思います。それぞれの今までのやり方がある中で、地域行事を近隣の連合自治会合同で行うかどうかという問題が出てくると思います。

吹田・豊中・尼崎・西宮の4市をひとつのエリアとみなし、連携を取り合っています。自治会に関しても同じではないかと思っています。例えば、大学を抱えている連合自治会、大きな神社を抱えている連合自治会、といった共通点で連携を取ればおもしろい気がします。

Dグループ

連合自治会長になってよかったことについて話し合い、イベントを通して色んな人と交流し、楽しい経験ができたというプラスの意見が出ました。大変なこともあります、基本的にはやってよかったと思っています。また、連合自治会と各種団体が上手くいっている地域とそうでない地域があるとのことでした。他の団体、特に自治会に加入していないマンションとも緩く繋がり、小学校でイベントへの協力について文書を配付しながら、地域のまとまり・つながりを広げていきたいと思っています。

また、高齢者の見守りを福祉委員と民生委員、高齢者クラブが行っていますが、統一してできるようにできたらと思います。

市長

皆様が抱えている課題にも前向きに取り組んでいる様子がよく分かりました。連合自治会が、地域の事務的にもイベントでも一番上に立っていて、その下に諸団体があるというのが大体の姿だと思いますが、そうでないところのご苦勞を今お聞きしました。それは決して悪いことではなく、自立的に活動しています。

連合自治会と諸団体の関係が、今日の話であった自治会とNPOの関係と鏡になっているような気がします。「思い」で集まっている方々と地域全体をお世話しないといけないと思っている団体、そこがうまく連携できるツールは「飲み会」ではないでしょうか。まずは、昼間にお茶を飲んで、次に飲み会を行う自治会は繋がりが強いです。ニュータウン地域の繋がりは希薄です。それがニュータウン地域の課題だと思っています。飲み会を通してベタな繋がりを作っていただきたいと思います。

「緩く」というのはすごくいいキーワードだと思います。若い人たちは繋がりを全て拒絶しているわけではなく、緩くだったら繋がりたいと思っています。

自治会に加入しているかどうかで区別するのをやめませんか。以前、地震でつぶれた家が目の前に2件あり、片方は自治会に加入している家、もう片方は自治会未加入の家、市長はどちらから助けるとか聞かれたことがあります。そのような考えを持っている人がいる自治会には加入してくれません。人の命の前に自治会に加入しているかどうかは関係ありません。自治会に加入してもらうには、連合自治会長のキャラクターも大事だと思います。